

先人顕彰コーナー 企画展



昭和40年代頃の平和通り書店商店街のアーチ

写真で見る米沢のむかし

Part.4 平和通りリバイバル

今年で4回目を迎える写真パネル展。今回のリクエストの多かったPart.1 平和通り商店街のリバイバル展示を行います。

ぜひ、昭和の米沢の平和通り、またその周辺の米沢銀座、桐町商店街の賑わっていた昭和30～40年代の様子を写真パネルでご覧ください。

展覧会名	市立米沢図書館 先人顕彰コーナー 「写真で見る米沢のむかし—Part.4 平和通りリバイバル」		
会期	2021年11月26日(金)～2022年1月26日(水)	休館日	12月23日、12月29日から1月3日
開館時間	平日 10時～19時 土日祝 9時～19時	* 図書館の開館時間に準じます。	
会場	ナセBA 中2階先人顕彰コーナー(多目的展示室)		
料金	無料		
主催	公益財団法人米沢上杉文化振興財団		

本展に関するお問合せ

市立米沢図書館

展示担当: 石黒志保(郷土資料担当)

〒992-0045 米沢市中央1-10-6

TEL 0238-26-3010 FAX 0238-26-3012

<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/>E-mail : tosyokan@library.yonezawa.yamagata.jp

展覧会について

【概要】

本展は、平成30年度(2018)に行った同展 Part.1 平和通り商店街のリバイバル展示です。加えて、昭和40年代以降、平和通り商店街は買い物客で賑わいましたが、それ以前は「米沢銀座」と呼ばれた立町商店街、桐町(あらまち)商店街付近の各商店の賑わいぶりも展示します。上杉まつりの前身である「商工まつり」の出し物の様子や、「米沢七夕まつり」での各店が競って笹飾りを飾り付けた様子などの写真も展示し、戦後、米沢の町の盛衰を写真で見ていただくことを趣旨としています。

1 ナセBAのむかし

現在、ナセBAが建っている場所は、江戸期には米沢藩の御用屋敷、その後武芸所がありました。明治13年(1880)になると、興譲小学校が建てられましたが、大正6年(1917)の米沢大火で焼失、同10年にはその跡地に米沢市役所が建てられ、以降、市議会堂や消防署などもこの地に移り、官公庁街として栄えてきました。それは、立町や大町の商店街にほど近く、市民の利便性を重視したからであったといいます。



明治13年創立の興譲小学校



大正10年建設の米沢市役所

2 よねざわ戦後の町並み

昭和30年代になると、日本は高度成長期の波に乗り、市民生活も激変します。「三種の神器」と呼ばれたテレビ・冷蔵庫・洗濯機が普及し始め、商店街にはスーパーマーケットが登場します。市内初のスーパーマーケットは、昭和32年(1957)に登場した「かくだい」です。昭和40年代に入ると、平和通り商店街に大沼米沢店、米沢ショッピングセンター、米沢ファミリーデパートが次々と開業し、町の中心は平和通りに移っていきました。

当時、興譲館高校等に講演に来ていた米沢出身の民法学者である我妻榮(1897～1973)は、「人間というものは、古い人は古いイメージにこだわって、思い出と言っているけれども、若い人はますます合理的に進んで壊していく。…やはりそこには何か拠りどころがなければならないのではないだろうか。」と述べています。

今回展示した写真の多くは、昭和30～40年代の米沢の町の様子です。その頃、郷里米沢に帰省して、当時の町の移り変わりを見ていた我妻ならではの感想であったのではないかと思います。それから50年経ちました。現在のこのナセBA周辺も50年といわず、ここ数年で大きく変わってきています。今一度、市民の皆様はこの我妻の言葉を振り返っていただき、町のありかたを考えていただきたいと思います。展示企画しました。



歩行者天国(昭和48年頃)



平和通り商店街(昭和46年)



米沢銀座(昭和48年)



立町交差点の「かくだい」



仮装行列



米沢七夕まつり